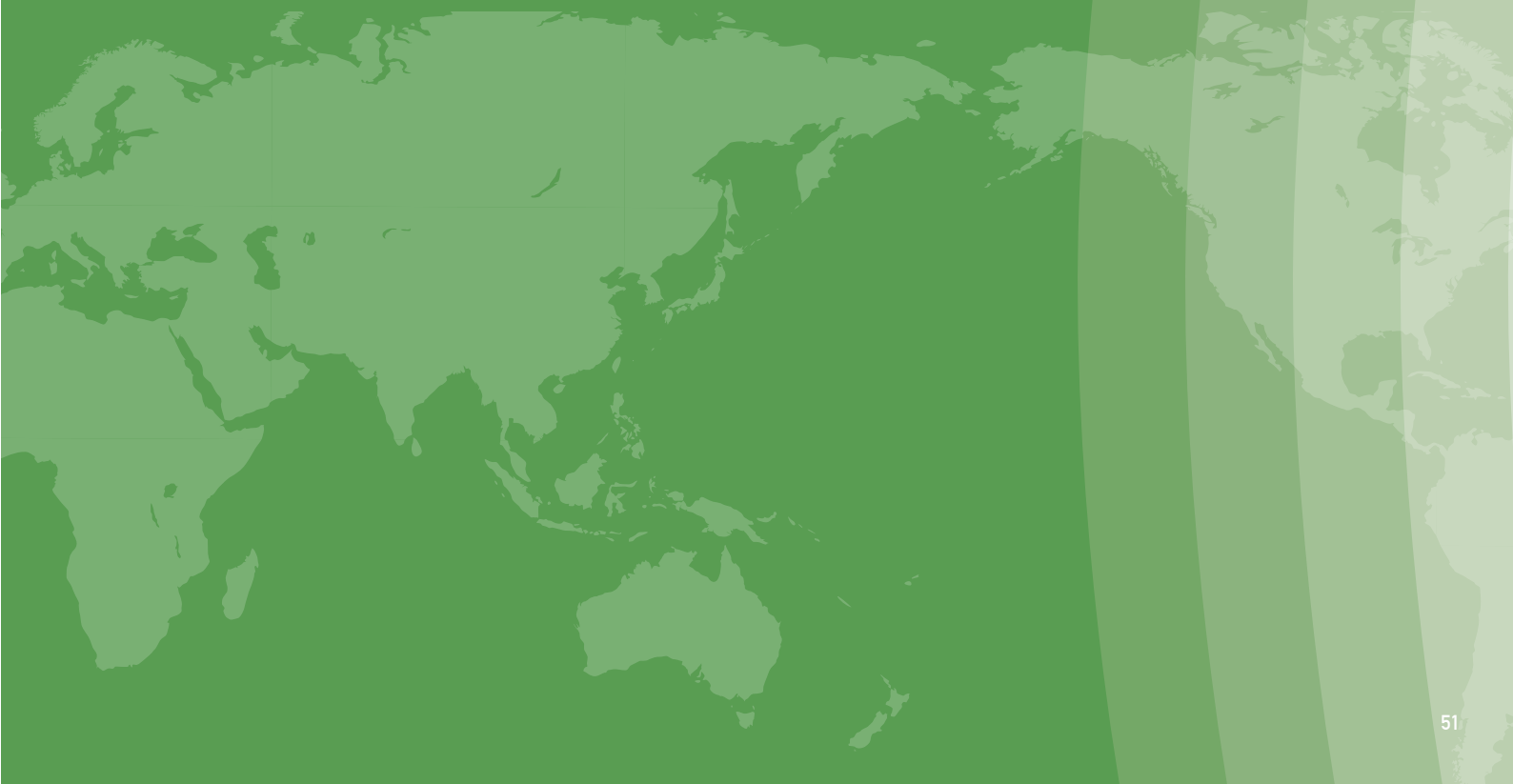


Part 3 国際・社会連携拠点



地球研は、つねに外部との柔軟なつながりを保ち、広範な地球環境に関する最新情報を収集し、研究協力体制の充実を図っています。

国際的な研究拠点としての中核機能を果たすため、国内外の研究機関等との連携を深化させ、国際共同研究を推進しています。また、新たな国際的な地球環境研究の枠組みであるFuture Earthの推進に積極的にかかわり、Future Earthアジア地域センターの運営をはじめとして、積極的な国際活動を展開しています。

同時に、自治体や地域社会等の多様なステークホルダーと協働した課題解決志向の研究や社会実践のほか、人材育成の一環で環境教育を推進しています。

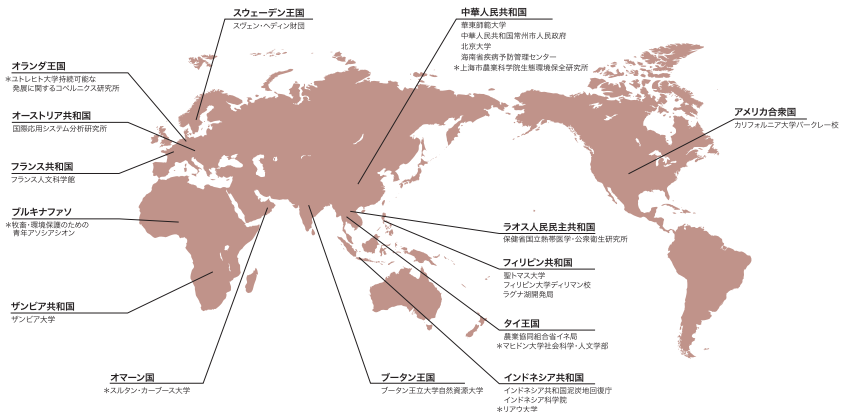
海外の連携研究機関

地球研では、海外の研究機関・研究所などとの間で積極的に覚書および研究協力協定を締結し、共同研究の推進、研究資料の共有化、人的交流などを進めています。2018年度は、タイ、ブルキナファソ、オマーンなどの海外の研究機関等と5つの覚書または研究協力協定を締結しました。

また、海外の研究者との連携をさらに密にするため、招へい外国人研究員として各国から多数の著名な研究者を招いています。

覚書および研究協力協定の締結（2019年4月1日現在）

*は2018年度以降に覚書を新たに締結した研究機関



国内の連携研究機関等

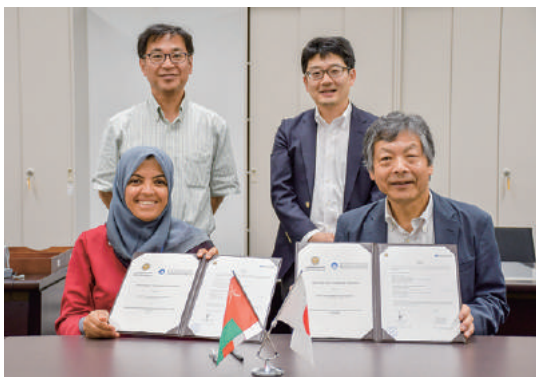
地球研では、全国27の研究機関や行政機関等と学術交流等に関するさまざまな協定を締結することにより、組織横断的な学術研究の推進や相互の研究および教育の充実・発展に取り組んでいます。

学術交流等に関する協定を締結している研究機関

- 1 名古屋大学大学院環境学研究科
- 2 同志社大学
- 3 長崎大学
- 4 京都産業大学
- 5 鳥取環境大学
- 6 京都大学
- 7 千葉大学環境リモートセンシング研究センター
- 8 九州大学持続可能な社会のための決断科学センター
- 9 金沢大学環日本海域環境研究センター
- 10 北海道大学大学院工学研究院・国際連携研究教育局・大学院保健科学研究院・大学院農学研究院
- 11 東京大学大学院総合文化研究科
- 12 東北大学大学院生命科学研究所
- 13 愛媛大学社会共創学部
- 14 京都精華大学
- 15 統計数理研究所

学術交流等に関する協定を締結している行政機関など

- 1 愛媛県西条市
- 2 京都市青少年科学センター
- 3 農林水産消費安全技術センター
- 4 福井県大野市
- 5 京都府亀岡市
- 6 京都府立北稜高等学校
- 7 京都府立洛北高等学校
- 8 宮崎県
- 9 NHKエデュケーショナル
- 10 秋田県能代市
- 11 京都市・イクレイ日本・京都府環境保全活動推進協会
- 12 山梨県忍野村



オマーン国立スルタン・カーブス大学と学術交流に関する協定を締結（2018年7月）



京都精華大学と学術交流に関する協定を締結（2018年9月）

地球研には、持続可能な社会への転換をめざす国際的な研究プラットフォームであるFuture Earthのアジア地域センターが設置されています。

Future Earthは、分野を超えた研究協力と、科学と社会の連携を推進し、地球環境問題の解決や持続可能な発展にむけた社会変容をめざす国際共同研究のネットワークです。現代は人間活動が地球環境に甚大な影響を及ぼす「人類世（Anthropocene）」というべき新たな地質年代であるとの理解に立ち、地球環境と人間活動が相互に影響しあう複雑な地球環境システムを包括的に理解し、地球規模の課題を解決し、持続可能な社会に転換するための研究を、分野を超えて、社会のパートナーとともに推進しています。「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」や気候変動抑制に関する「パリ協定」などの国際的な合意目標の達成に資する知見を創出することも、Future Earthの重要な活動の一部です。

Future Earthは、国連機関等からなる評議会および諮問委員会によってその活動の方向性が審議決定され、研究の実施にあたっては、5ヶ国（日本、スウェーデン、仏、米、カナダ）に置かれた国際本部事務局と地域センターが中心となり、テーマやプロジェクトを超えた関係者間の連絡調整や研究推進をおこなっています。

地球研は、アジアにおける学際・超学際研究の豊富な経験を背景にFuture Earthのアジア地域センターに選出され、地域の優先課題やニーズがグローバルなアジェンダに反映されるよう、地域とグローバルな動向をつなぐ役割を果たしています。また、アジアのパートナーとのネットワークを充実させ、対話のためのプラットフォームを提供し、アジアにおける活動を推進しています。

これまでに、Future Earthアジア地域センターは、Future Earthアジア顧問委員会の設立、南アジア地域オフィス（インド、バンガロール）の設置や、中国、韓国、台北、インド、オーストラリア、モンゴル、フィリピン、日本における国・地域レベルのネットワーク発足の支援など、アジアにおける推進体制の充実を図っています。また、アジアに焦点を当てた研究プログラムである Sustainability Initiative in the Marginal Seas of South and East Asia (SIMSEA) と Monsoon Asia Integrated Research for Sustainability-Future Earth (MAIRS-FE) の始動を支援しました。

Future Earthアジア地域センターは、Future Earth in Asia国際ワークショップの年次開催やアジア学術会議におけるセッション開催などとおして、アジア諸国の研究ネットワークの構築や研究アジェンダの開発を進めています。2018年には、Future Earth地域ワークショップをFuture Earth国際事務局とともに開催し、グローバルな研究活動にアジア地域としての関りを深めていく戦略を議論しました。

Future Earthは、社会との知の共創のしくみとして、「知と実践のネットワーク」(Knowledge-Action Networks: KANs)を設け、超学際研究を推進しています。Future Earthアジア地域センターは、「持続可能な消費と生産のシステム」に関する「知と実践のネットワーク」の事務局としてその活動を主導し、国内外の多くの研究者や実践家とともに研究活動を展開しています。

最新情報は、Future Earthアジア地域センターのウェブサイトやFacebookでご覧いただけます。



第18回アジア学術会議にてFuture Earthセッション「アジアにおけるFuture Earth：国と地域の視点から」を開催（2018年12月）



Future Earth 地域ワークショップ（2018年10月）



Future Earth アジア地域センターウェブサイト

環境教育

地球研では、教育を次世代市民と情報・知識の交流を行なう貴重な機会ととらえ、研究プロジェクトの成果等を集約・統合し、地球研ならではの環境教育「RIHNメソッド」の構築をめざします。感性を重視し、芸術活動を取り入れるなど、国際的な環境教育プログラム KLa-SiCa (Knowledge, Learning and Societal Change) とも連動しています。

地球研は京都府立洛北高等学校（以下、洛北高校）および京都府立北稜高等学校（以下、北稜高校）において「地球環境学」を活かした環境教育を実践しつつ、環境教育資材の開発をめざしています。

洛北高校では、文系と理系の1・2年生の生徒の課題研究、地球環境研究の問い立てから結論まで通年で教育的にサポートし、市民公開イベントやウェブサイトでその成果を発信しています。

北稜高校では2年生30名のクラスを1年間担当し、総合的な学習の時間を活用した「地球環境学の扉」を開講しています。第1学期には地球研の研究者が自らのフィールド調査の経験をもとに講義を実施し、第2学期に研究者のアドバイスのもとに生徒が課題学習を行ないます。第3学期には京都市立明德小学校や京都市立岩倉南小学校で小高連携事業をおこない、環境と地域に関する学習結果を発表し合います。

このほか、台湾の台東大学附属小学校と同志社小学校との学校間の国際交流の促進や、兵庫県立明石北高等学校と大阪府立豊中高等学校における課題探求型の環境学習のサポートも行なっています。

これまで小学生から高校生を対象に「地球環境学」の学習と考察をサポートし、その成果を広く社会に発信してきました。学校教員に対しては地球研のプロジェクト研究室訪問や実験室見学の機会を提供し、環境教育における新たな視点や方法について学ぶ研修をおこないました。

こうした環境教育の実践は、地球研の「地球環境学」を問い直す機会にもなっています。教えることにより、「地球環境学」への新たな視点を獲得できるのです。

地球研の環境学は、社会のための学問であり、社会と共創することに特徴があります。教育活動は社会とつながる大切な場です。今後は教育機関に加え、行政機関、地域住民との協力、連携をさらに推進し、地球研ならではの環境教育「RIHNメソッド」の開発を行ないます。



洛北高校生による研究中間発表（2018年11月）



北稜高校生と明德小学生との学習交流（2018年2月）

■次世代の人材育成について

地球研では、総合地球環境学を担う次世代の人材育成に努めています。大学との連携協定に基づき大学院生を受け入れ、フィールドにおける研究指導、授業科目の担当、学位授与審査への参加など、実質的な大学院教育を行ない、従来の学問分野では対応しきれない地球環境問題の解決に貢献できる実践的な人材育成に貢献しています。

2018年度には、5名を特別共同利用研究員として受け入れて研究指導を行ないました。また、学術交流協定を締結している名古屋大学大学院環境学研究科および東北大学大学院生命科学研究所の連携教員として、3名の教員が研究指導等に参画するなど、より組織的な大学院教育を展開しています。さらに同志社大学とは包括的な連携協定を結んでおり、理工学部環境システム学科1回生を対象とした「環境システム学概論」のリレー講義を担当しています。そのほかにも、中国・北京大学での「地球環境学講座」（2018年度は学生約70名が参加、地球研教員・プロジェクト研究員等7名が講演）を行なうなど、さまざまなかたちで人材育成に貢献しています。

また、実践プロジェクト等において大学院生（2018年度は45名）を積極的にプロジェクトメンバーとしてフィールド調査、研究会、国際研究集会等に参画させたのはじめ、地球研の同位体分析等の高度分析機器の利用（同位体環境学共同研究事業についてはp50）や、過去の研究プロジェクトにより収集された地球研アーカイブズの活用などをとおして、専門性、総合性、学際性（学融合性）、国際性を備えたリーダーシップに富む若手研究者の養成に貢献しています。さらに、2018年度に在籍した上級研究員（3名）、研究員（35名）、研究推進員（28名）のうち5名が大学教員として採用される（2019年3月31日現在）など、若手研究者にキャリアパスの提供を行なっています。

博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業

地球研が国内外で実施している研究プロジェクトの成果を、映像や展示の制作・公開を通じて可視化し、地域の人・社会・自然の理解に基づく未来可能な社会のあり方を地域社会と共創する〈超学際研究〉の高度化をすすめます。事業を通じて、地域の課題解決を指向する新たな〈地域環境学〉を創成することをめざします。

2018年度の取り組み

1	地域に根ざした豊かな自然の恵みと防災減災の両立とは?：高質映像による地域協働の深化
2	「環境と風土」の環境教育映像の作成
3	子どもから地域へ、映像でひろがるサンテーション
4	バウンダリー・オブジェクトとして“水”のつながりを可視化するツールの開発
5	100 Years of Food: Film and exhibition for interactive communication between local community, researcher, and public audiences
6	映像を活用した研究プロジェクトの高度化：地域の未来の共創において
7	ゲームジャム型ワークショップを通じた研究者と市民とのコミュニケーション
8	地球環境学研究にもとづいた映像人類学作品の共創と循環



オープンハウスでのインスタレーションの一例。ブータンの食に関する映像をタペストリーに投影し、研究者と来訪者が交流しました。



ドーム型テントでのプロジェクションマッピングを用いる成果発信など、新たな手法を開発しています。

地域との関わり

地域社会との連携が、超学際（Transdisciplinary）研究をめざす地球研の研究活動の中でますます重要になってきています。地球研の研究プロジェクトは国内外の数多くの地域で研究活動を行なっています。研究教育機関だけでなく地方自治体と学術協定を結び、行政と密接に連携しながら長期にわたる研究活動を実施する例が増加しています（協定についてはP52）。

たとえば福井県大野市とは水の利活用と保全に関わる学術協定を結んでいます。同市の東ティモールにおける国際協力活動も支援しており、その成果は、ブラジルで開催された第8回世界水フォーラムの地球研・ユネスコ共同セッションで発表しました。2019年には、大野市—地球研リエゾン・ラボ（仮称）が完成予定です。

宮崎県とは同県の世界農業遺産を活かした地域活性化活動等で協働するための交流協定を締結しました。世界農業遺産とは、世界的に重要かつ伝統的と認められる農林水産業を営む地域を、国際連合食糧農業機関（FAO）が認定するユニークな制度であり、地球研は諸地域と密接に関わり遺産登録を支援しています。

また、地球研の所在する京都は、京都議定書採択の地であり、環境にかかる取り組みに熱心です。京都府・京都市とは「KYOTO 地球環境の殿堂」や「京都環境フェスティバル」、さらに環境教育を通じて頻繁に意見交換や協力活動を行なっています。

地球環境問題の解決には、地域の視点が不可欠です。社会とともに将来のあるべき姿を考えていくのが地球環境学であり、そのために地域社会との連携はかかせません。今後も地域の社会と環境など地域特有の課題を取り上げつつ、より総合的な研究・実践活動へと結びつけてゆくこととなります。



宮崎県と交流協定を締結（2017年8月）



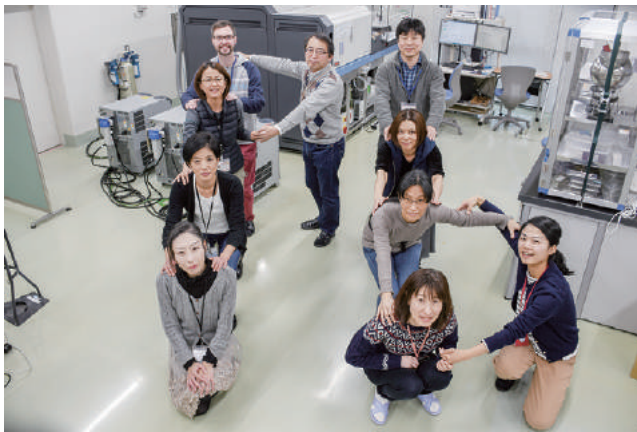
KYOTO 地球環境の殿堂（2019年2月）

研究基盤国際センター (RIHN Center)

総合地球環境学の構築に向けて、プログラム・プロジェクトから創出される多様な研究成果の継続的な利活用を図るとともに、地球研における研究活動全般を支援し、国内外の大学・研究機関をはじめとする社会の多様なステークホルダーとの協働を促進するため、研究基盤国際センター (RIHN Center、以下センター) を設置しています。センターには計測・分析部門、情報基盤部門、連携ネットワーク部門、コミュニケーション部門をおき、プログラム、プロジェクトや管理部と連携しながら多種多様な業務を担っています。

計測・分析部門

部門長：陀安 一郎

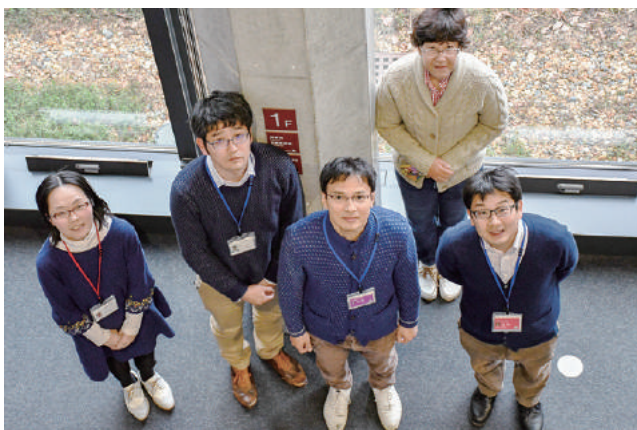


- 実験施設の管理・運営
- 実験基盤形成事業
- 同位体環境学共同研究事業

→主な活動は P47-P50

情報基盤部門

部門長：熊澤 輝一



- 情報拠点基盤構築
- 地球研アーカイブズと地球研機関リポジトリの管理・運用
- 情報設備の管理・運用

→主な活動は P47

連携ネットワーク部門

部門長：石井 励一郎



- 国内外研究機関との研究連携推進
- 国際科学コミュニティとの戦略的な連携
- アジア地域を対象とした地球環境研究と大学院教育の基盤整備

→主な活動は P52

コミュニケーション部門

部門長：阿部 健一



- 超学際時代の成果発信に関する研究開発
- 環境教育 RIHNメソッドの研究開発
- 地域と世界をつなぐ研究手法開発：「世界農業遺産」を事例に

→主な活動は P54-P55

Future Earth部門

部門長：Hein Mallee



- Future Earth アジア地域センター事務局の運営
- Future Earthと地球研の研究活動の連携

→主な活動は P53

IR室・広報室・国際出版室

■IR（インスティテューショナル・リサーチ）室

室長：谷口 真人

IR室では、地球研の研究教育・経営戦略の企画立案および実行のために、所内外のさまざまなデータの収集、分析及び可視化をおこない、研究戦略会議を総括する所長の意思決定を支援します。またIRに関する分析手法や、学際研究・超学際研究を推進する地球研が必要とする新たな研究評価指標の開発など、意思決定支援ツール等に関する調査研究をおこないます。

所長直属で設置されるIR室には、室長の下に、データの分析、分析手法の開発、支援及び情報提供、関係部署との調整をおこなう専任のインスティテューショナル・リサーチ・アドミニストレーターとIR室員（研究教職員の兼務）を置き、任務を遂行します。所の研究教育・経営戦略に必要な研究教育情報としては、研究成果、研究水準、研究体制、教育、人材育成、社会貢献、国際連携、国際発信等を中心に、数値的データおよび記述的データを収集し

ます。また、関係部署の協力を得て、教員の研究業績を評価するための資料等の作成をおこないます。



■広報室

室長：Hein Mallee

地球研がおこなう研究は、研究者との共同だけでなく、社会のさまざまな方々との協働により生み出されるものです。その成果は研究者コミュニティや一般の方々と共有され、利用されることで、さらに価値が高まるため、地球研にとって、研究成果をどのように伝えていくかがますます重要になってきています。一方で、インターネットの発展などコミュニケーションの手段、手法も大きく変化し、従来の書籍や論文などに加え、映像による発信や、ソーシャルメディア等を利用した双方向性を持ったコミュニケーションなど、新しい可能性が生まれてきています。

広報室では、プログラム、プロジェクトやコミュニケーション部門をはじめとしたセンターの各部門と連携し、地球研市民セミナー、地球研地域連携セミナー、オープンハウス、プレス懇談会などの企画・実施、ウェブサイト及びFacebookやTwitterといったSNSを通じた成果発信、要覧やリーフレット、地球研ニュースの発行、地球研叢書、和文学術叢書の刊行などをおこないます。また、分野横断的な学会や、シンポジウム等の機会を生かして、ブース展示な

どを企画・実施します。広報室が中心となったこうした取り組みを通じて、研究者コミュニティや一般の方とのコミュニケーションをさらに活性化し、地球研のアイデンティティの確立を進め、開かれた研究所をめざします。



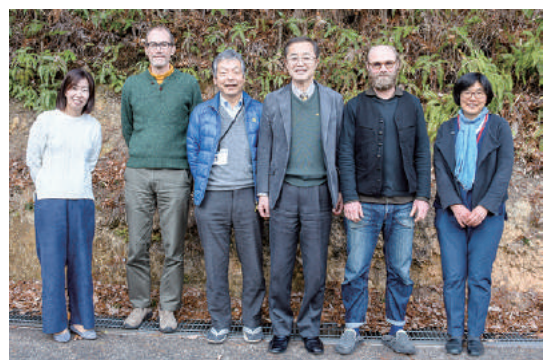
■国際出版室

室長：杉原 薫

国際出版室は、地球研の国際化と国際発信を強化するため、外国語による出版とその企画・立案を支援しています。研究戦略会議を総括する所長のリーダーシップの下で、地球研の掲げる文理融合、超学際型のアプローチによる「地球環境学」を国際的に可視化するための活動を推進します。

具体的には、(1) 2018年度から刊行が始まったGlobal Sustainability (Cambridge University Press) の編集に参画し、Humanities and Global Sustainabilityについての特集を地球研が中心となって企画・立案します。所長と室長はSection Editorとして、その中心的役割を担います。(2) 地球研英文叢書(Springer)の企画・編集を出版社との連携の下に行います。(3) 英文雑誌などへの投稿を、必要に応じて支援するとともに、その他の英文・英文以外の外国語(とくにアジアの言語)による出版物の刊行(新しいシリーズの可能性を含む)を支援します。(4) 地球研

の国際会議など、他の活動とも連携し、出版を通じて国際ネットワークの充実と国際発信に貢献します。



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

4つの大学共同利用機関法人

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構(略称:人文機構)は、4つの大学共同利用機関法人のうちの一つであり、人間文化研究にかかわる6つの大学共同利用機関で構成されています。それぞれの機関は、人間文化研究の各分野におけるわが国の中核的研究拠点、国際的研究拠点として基盤的研究を深める一方、学問的伝統の枠を超えて相補的に結びつき、国内外の研究機関とも連携して、現代社会における諸課題の解明と解決に挑戦しています。真に豊かな人間生活の実現に向け、人間文化の研究を推進し、新たな価値の創造を目指します。

人間文化研究機構 NIHU	高エネルギー加速器研究機構 KEK
自然科学研究機構 NINS	情報・システム研究機構 ROIS

人文機構本部と
6つの大学共同利用機関の所在地



研究推進・情報発信事業

人文機構は、2016年度に総合人間文化研究推進センターと総合情報発信センターを設置しました。

2つのセンターでは、6つの機関をハブとした研究ネットワークを構築して国際共同研究を推進するとともに、国内外への積極的な発信や次代を担う若手研究者の育成に取り組めます。

総合人間文化研究推進センター

6つの機関と国内外の大学等研究機関や地域社会との連携・協力を促進し、人間文化の新たな価値体系の創出に向けて、現代的諸課題の解明に資する組織的共同研究「基幹研究プロジェクト」を推進しています。

総合情報発信センター

人間文化にかかわる総合的学術研究資源をデジタル化することで、広く国内外の大学や研究者への活用を促進するとともに、社会との双方向的な連携を強化することで、研究成果の社会還元を推進しています。

総合人間文化研究推進センターが推進する基幹研究プロジェクト

機関拠点型	総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築
	日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワークの構築
	多様な言語資源に基づく総合的日本語研究の開拓
	大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出
	アジアの多様な自然・文化複合に基づく未来可能社会の創発
広領域連携型	人類の文化資源に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築
	日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築
	アジアにおける「エコヘルズ」研究の新展開 [→ P45]
ネットワーク型	異分野融合による「総合書物学」の構築
	地域研究推進事業：北東アジア、現代中東、南アジア
ネットワーク型	日本関連在外資料調査研究・活用事業： ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用 パチカン図書館所蔵マリオ・マレガ収集文書調査研究・保存・活用 北米における日本関連在外資料調査研究・活用 プロジェクト間連携による研究成果活用

総合情報発信センターの情報・発信事業

研究資源高度連携事業 nihuINT https://int.nihu.jp 機構内外の情報資源を統合検索する、人間文化研究データベース
情報発信事業 リポジトリ https://www.nihu.jp/ja/publication/database#repo 国際的に研究成果を発信するため各機関でリポジトリを公開 研究者データベース https://nrd.nihu.jp 機構所属の研究者情報を一元的に公開する研究者データベース運用 国際リンク集 https://guides.nihu.jp/japan_links 日本文化研究情報への総合的アクセスを支援するためのリンク集を構築し運用 NIHU Magazine https://www.nihu.jp/ja/publication/nihu_magazine 機構の最新の研究活動、成果を海外に発信するウェブマガジン
人文機構シンポジウム https://www.nihu.jp/ja/event/symposium 第33回 鹿児島島の歴史再発見ー新しい地域文化像を求めて 第34回 市民とともに地域を学ぶー日本と台湾にみる地域文化の活用術 第35回 中東と日本をつなぐ音の道ー音楽から地球社会の共生を考える
社会連携事業 産業界や外部機関と連携し、研究成果の社会還元を推進 ・味の素食の文化センターと共催でシンポジウムを開催 ・大手町アカデミアと連携し、特別講座を開催 ・国際交流基金と共催で「ジャポニスム2018」の公式シンポジウムを開催

情報発信

地球研では、研究成果を広く社会に還元するため、一般の方や研究者を対象にしたシンポジウム、セミナーなどのイベントを開催しています。また、総合地球環境学に関するさまざまな刊行物を積極的に出版しています。

イベント

地球研国際シンポジウム 専門家

地球研の研究成果を世界に発信することを目的として、国内外の研究者コミュニティを対象に年に1回開催しています。



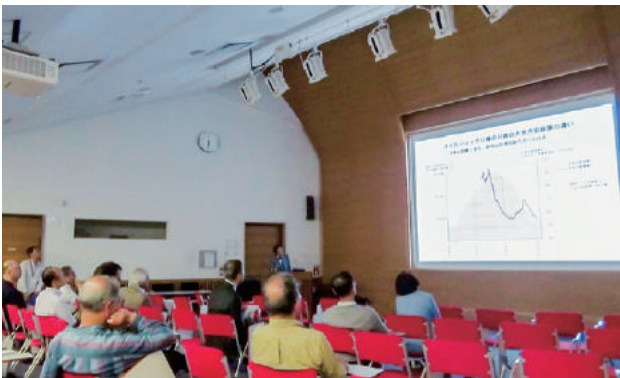
同位体環境学シンポジウム 専門家

最新の分析技術の開発や普及、環境研究についての情報交換を目的に研究者コミュニティを対象に年に1回開催しています。



地球研セミナー 専門家

地球研に滞在中の招へい外国人研究員や、外部の専門家が講師となり、地球環境問題に関する最新の話題と研究動向を共有し、広い視座から地球環境学をとらえようとする専門家向け公開セミナーです。



談話会セミナー 専門家

原則月2回、昼休みを利用しておこなうランチセミナーです。地球研の若手研究者が中心となって、各自の研究背景を踏まえた話題を提供し、研究者相互の理解と交流を深めています。



地球研地域連携セミナー 専門家 一般の方

世界や日本の各地域で共通する地球環境問題の根底を探り、解決のための方法を考えていくことを目的に、各地域の大学や研究機関、行政、地元住民などと連携してセミナーを開催しています。



地球研東京セミナー 専門家 一般の方

地球研の研究成果と今後のさらなる進展について、国内の研究者コミュニティや一般の方に理解と協力を呼びかけていくため、東京でのセミナーを開催しています。



地球研市民セミナー 一般の方

地球研の研究成果や地球環境問題の動向をわかりやすく一般の方に紹介することを目的に、地球研または京都市内の会場において年に数回開催しています。専門用語や難しい概念を使用せず、環境の大切さを伝えるよう努めています。



地球研オープンハウス 一般の方

2011年度から、広く地域の方々との交流を深めるために、地球研の施設や研究内容を紹介するオープンハウスを開催しています。各プロジェクト研究室でのイベント、クイズラリーや実験室見学ツアーなど、地球研を身近に感じていただくための企画を実施しています。



地球研×ナレッジキャピタル 一般の方

地球環境問題を一般の方にもわかりやすい切り口で紹介できるように、身近な食や生き物、文化に絡めた内容でお届けしています。開放感のあるカフェ空間でドリンク片手に受講できるのが特徴です。



研究所見学 専門家 一般の方

研究室や実験室の様子をご覧いただくことができます。事前申込が必要です。



刊行物

地球研叢書

地球研の研究成果を学問的にわかりやすく紹介する出版物です。これまでに、21冊出版されています。



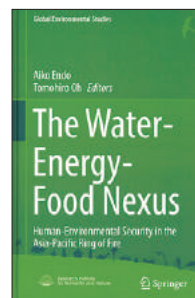
地球研和文学術叢書

地球研の研究成果を研究者に向けて発信する出版物です。これまでに、9冊出版されています。



地球研英文学術叢書

地球研の研究成果を国際社会に向け広く発信する、英文での出版物です。これまでに、6冊出版されています。



地球研ニュース(Humanity & Nature Newsletter)

地球研として何を考えているのか、またどのような所員がいて、いかなる研究活動をしているかなどの最新情報を発信しています。特に、地球研にかかわっている国内外の研究者や一般の方を対象に、コミュニケーションツールのひとつとして機能することをめざしています。



その他

地球研ではさまざまな刊行物を出版しています。たとえば、研究プロジェクトで取り入れている多様な地球環境学の研究手法を、大学生や自治体、研究者にわかりやすく紹介する『地球環境学マニュアル 1—共同研究のすすめ』、『地球環境学マニュアル 2—はかる・みせる・読みとく』や、さまざまな分野にまたがる研究プロジェクトの成果を事典という形でまとめた『地球環境学事典』があります。



ホームページ・ソーシャルメディア



研究活動やセミナーなど最新の情報を閲覧できます。要覧やリーフレット、年報、地球研ニュースなど刊行物のダウンロードもできます。

<http://www.chikyu.ac.jp/>



Facebook

最新のイベント情報のお知らせや、研究成果の発信などをしています。

ページ名：総合地球環境学研究所（地球研）

ユーザー名：@RIHN.official



Twitter

地球研での日々のイベントや研究会の様子などをリアルタイムでお伝えします。

アカウント名：総合地球環境学研究所（地球研）

ユーザー名：@CHIKYUKEN



YouTube

過去のセミナーやシンポジウムが閲覧できます。また、シンポジウム等の同時配信を不定期でおこなっています。

<https://www.youtube.com/user/CHIKYUKENOfficial>



iTunes U

国際シンポジウムやセミナー等の映像や「地球研ニュース」など、地球環境学に関するさまざまな成果を広く配信しています。2016年には、iTunes U 特集「Best of 2016」において、地球研のコンテンツである「ジル・クレマン 連続講演会 Gilles Clément, un jardinier français au Japon」および「Wicked Solutions: A System Approach to Complex Problems ウィキッド・ソリューションズ:複雑な問題に対するシステムアプローチ」が選出されました。